

五東石油(北海道)

けんま君Pro

旭川市内に6SSを持つ五東石油(後藤諭一社長・出光系)は、今冬の油外収益向上対策としてタイヤ外周研磨装置「けんま君Pro」を導入した。

新品、中古にかかわらずスタッドレスタイヤのグリップ性能を最大限に引き出すことのできるこの画期的な機械は、地元旭川の機械設計会社、エー・アイ・エス松井隆社長が開発したもの。今冬からの発売になる改良型の「けんま君Pro」は岩手県のSSや旭川市の自動車整備会社などで続々と導入が決まっ



店頭で「けんま君Pro」の新導入をアピール(円内は後藤社長)

ているが、製造番号1号機は五東石油の近文SSに昨年11月12日に納品された。同社が「けんま君Pro」を導入した背景には、旭川市場での価格競争の激化がある。「フルSSでは何か特徴がないと生き残りは難しい。SSでは初めての導入ということで差別化が図れる」と後藤社長は話す。

原料となる石油の高値傾向でタイヤの価格も値上がりしていることから、2、3シーズン使用して本当なら交換したいスタッドレスタイヤを我慢して履いてい

るユーザーが増えている。とはいえ、これらの人々には古くなったタイヤをできるだけ滑らないようにしたい、という安全性のニーズがこれまで以上に高まっているともいえる。

「タイヤ研磨加工は需要と供給がまさにマッチしたSS期待の商品。また、作業を実際に見てもう一つで、技術力を認めてもらうこともできる」と同社長。実際に研磨した効果は絶大で、自信を持って勧められるこの新商品が油外収益の柱となるよう期待している。

「けんま君Pro」は約150万円で購入。1台分のタイヤ研磨加工料金(脱着料込み)は、タイヤサイズ14以下4200円、15以上が5250円に設定して、路面状況が常にアイスバーンとなることから本格稼働のシーズンになる。今冬の目標台数は400台で、導入費用を1シーズンでペイする計画だ。

タイヤのグリップ性能を最大限に

営業窓口の拡大が鍵

須賀川瓦斯(福島県須賀川市、橋本良紀社長)が東北陸運局指定自動車整備工場(民間車検場)となり、車検整備に本格的に乗り出したのが6年前。それまでは4年間ほどユーザー車検を手がけていたが、「車検の代行に過ぎなかったので、

自分でやるつもり」(橋本社長)との考えから、認証工場資格を取り実績づくりをしてから、民間車検場の指定を受け、車検整備を始めた。

の約50%はSSで占めているが、車検整備は2%、約1億円を上げている。05年から車検台数は月平均150台と順調に増えてきた。修理に力を入れるなどの工夫に加え、ポイントとなるのが「営業の窓口を広げること」で、車検場の周